View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Wakayama University Academic Repository

異学年の交流を組み込んだ場における学生の学び

－2014年度のまちかど土曜楽交における社会科教育教室の取り組みを事例として－

Learning by exchange between the students from whom a grade differs：
Case study of department of pedagogy of social studies in Machikado Doyo Gakko in 2014 academic year

岩野　清美
IWANO Kiyomi
（和歌山大学教育学部）

本研究は、小学４～６年生を対象とした授業（まちかど土曜楽交）の計画・準備・運営・反省において、大学２回生と３回生という異学年の交流を意図的に組み込むことによって生じる学生の学びを明らかにする。学生の取り組み後の振り返りの内容を分析した結果、２回生と３回生では「子どもの学び」についての認識に差があること、このことが、２回生は３回生から子どもへの応対について学び、３回生は授業者の全体に対する立ち振る舞いについて子どもの姿を通して学ぶ、という学びの差を生み出していることが示唆された。２回生・３回生の学びの共通点としては、両者の学びがともに実践知にかかわるものであることが指摘できる。今後の課題は、実践を通しての学生の学びを社会科教育学の知見とつながりうるものへと質的に転換させていくことである。

キーワード　まちかど土曜楽交、教員養成、異学年の交流による学び

１．研究の目的

まちかど土曜楽交（がっこう）（以下、まち土）は、和歌山市・和歌山大学地域連携推進協定により、2011年度から実施されている事業である。本研究の対象とする小学生版まち土は、１年間に４クールが開催され、１クールが５回からなるため、１年間で計20回が開催される。１回のまち土は土曜日の午前中、10：00～12：30の時間帯で開催され、子どもの募集人数は毎回20名、和歌山市内の小学４～６年生を対象としている[1]。本事業の目的は「和歌山大学が有する人的資源及び知的資源を活用し、『和歌山を学ぶ』を基調テーマに児童・生徒を対象に、文化・芸術のまちづくりに寄与する」[2]ことであるが、教員養成をミッションとする大学側から見たときには、授業づくりとその実践を学生が体験することができる貴重な機会となっている。特に、学部３、４回生で位置づけられている主免実習、副免実習が、担任の先生がつくってくださった学級に入り授業をさせていただくものであるのに対し、このまち土では、授業の目標－内容－方法のみならず、その学習の場の設定までを学生たちが行うことができる点が特徴であるといえよう。

筆者が指導する社会科教育ゼミは2011年度末の「体験」（次年度への案内も兼ねたミニまち土）から参画し、年４回の楽交を開催してきた。これまで、授業の計画・実施を２回生が主体となって行い、３回生が必要に応じてサポートするという体制をとっていたが、2014年度は、この事前準備と当日の運営にかかる３回生のサポートをシステム化した。

教員養成の場における異学年の交流による学びは、その必要性が叫ばれながらもなかなか研究が進まずにいる領域のひとつである。本研究の目的は、まち土の計画・準備、運営、反省において、２回生と３回生という異学年間の交流を意図的に組み込むことによる、学生の学びの特徴を明らかにすることである。

２．実践の概要

２．１．2014年度社会科教育ゼミの概要とまち土の取り組み

2014年度社会科教育ゼミの２・３回生は、２回生３名（学生Ａ、Ｂ、Ｃ）、３回生４名（学生Ｄ、Ｅ、Ｆ、Ｇ）である。まち土は、２回生２人がリーダー、３回生２人がスーパーバイザーとして企画・運営を行った。また、リーダー、スーパーバイザーの役が当たっていなくても、当日補助として参加した学生もいる。学生の役割分担を表１に示す。

表１　学生の役割分担

	２回生	３回生	
	リーダー	スーパーバイザー	当日補助
第１回	A、B	D	E、F
第２回	C、A	E、D	G
第３回	B、C	G、F	D、E
第４回	A、B	F、E	D、G

2．2．各回のまち土の実践概要と学生感想

2．2．1．第１回(6/7)和歌山県の特産品をおいしく食べよう(参加児童数26名)

和歌山県の特産品である桃とびわを使ったジャムづくりと、桃とびわについての学習(歴史、栽培地、品種など)を行った。

学生の感想を表2-1～2-5に示す。なお、学生の感想はすべて原文ママ(以下同様)である。

表2-1　学生の感想(Ａ：２回生：リーダー)

(当日までの準備のなかで心掛けたこと。上回生のスーパーバイズのなかで、気づいたこと、助けられたこと)

進行の仕方、子供たちへの接し方や注意の仕方。時間配分やどういうものが必要になるかといった準備物等。子どもたちの中でもスムーズに作業できる子とそうでない子の間で生まれる時間差をなくすようにする手段(作業面の時間差をなくす心がけ)

(当日のまち土の中で心掛けたこと。上回生のスーパーバイズの中で気づいたこと、助けられたこと)

全体への声かけの仕方やさわぐ子への対応をしてくださってとても助かりました。班によってはすごい差があったのでまとめてくださってありがたかったです。心掛けたことは大きな声で明るくはっきり進行することを意識しました。

(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、失敗したなと思うこと、よかったと思うこと、次はこうしたいと思うことなど)

失敗したと思ったことは時間配分が早く終わりすぎた感じがありました。あと、果物を早めに洗っておいたり準備をしておけばよかったと思いました。次回のまち土では準備物の確認をもっときっちりしておきたかったです。もう少し授業要素を入れたいです。

表2-2　学生の感想(Ｂ：２回生：リーダー)

(当日までの準備のなかで心掛けたこと。上回生のスーパーバイズのなかで、気づいたこと、助けられたこと)

進行の仕方、時間配分など今までのまち土の経験からこういうものがあった方がいいとたくさん教えて頂けて、とても助かりました。子どもたちの動きがはじめてのまち土ということもあり、読めなかったのですごく助かりました。

(当日のまち土の中で心掛けたこと。上回生のスーパーバイズの中で気づいたこと、助けられたこと)

とりあえず大きな声で親しみやすくできたらいいなと思って、普通を意識して取りくみました。３回生の先輩方がすごく子どもたちに親われていて、すごいなと思いました。最初の準備の際に、すごくてきぱきと引っ張ってくれてすごく助りました。やんちゃな男の子たちをDさんがまとめてくれていてとても有難ったです。子どもの扱い方が皆上手だなと思いました。

(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、失敗したなと思うこと、よかったと思うこと、次はこうしたいと思うことなど)

時間配分が思った以上に上手くいかなくて、予想以上に早く終わってしまいました。上手くリーダーさん(A)を助けることができなかったので、次はもっとサポートできるように努力したいです。ちょっとつまらなさそうにしていた女の子が、最後のアンケートですごく楽しかったにマルをしていてくれたとき本当に嬉しかったです。

表2-3　学生の感想(Ｄ：３回生：スーパーバイザー)

(当日までの準備の中で心掛けたこと。リーダー(２回生)の反応から気づいたことなど)

１年間やってきましたので、１年間やって“気をつけた方が良いこと”“もっとこうしとけばよかった”ということは積極的に伝えるようにしました。

(スーパーバイザーとして、当日のまち土の中で心掛けたこと。リーダー(２回生)の反応から気づいたことなど)

リーダーがメインでやっていますが、抜けていることがないか注意するようにしました。

(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、リーダー(２回生)へのアドバイス)

大きな声で授業をしていたと思うが、ときどき聞こえないこともあったので、声の大きさ、強弱に気をつけたらよいと思いました。ジャムを事前に作ってくれたり、クイズ、作り方と準備が大変だったと思いますが、本当にお疲れさまでした。

表2-4　学生の感想(Ｅ：３回生：当日補助)

みんな班の子ども達全員で取り組めていた。カップケーキ作りでは、自分達以外の周りの先生のための分も子ども達から率先して用意していた姿が見れたのが今日一番の良かった所だと思いました。

表2-5　学生の感想(F：3回生：当日補助)

・時間配分は良いと思いました。
・集中できない子が多くて、作業が多いとなると、どうしてもぐちゃぐちゃになってしまいがちであるなと思いました。
・もう少し大きな声でもいいと思いました。

2．2．2．第2回(7/19)都道府県調べ＆もしも災害が来たら？(参加児童数25名)

iPadを用いて、近畿各県の名産品、観光地等について調べ、ポスターを作成し、発表した。また、もしも災害が来たときに必要なもの(非常用バッグに入れておいた方が良いもの)を考えあった。

学生の感想を表3-1から3-5に示す。

表3-1　学生の感想(C：2回生：リーダー)

(当日までの準備のなかで心掛けたこと。上回生のスーパーバイズのなかで、気づいたこと、助けられたこと)

2回の準備で、授業形式のまち土をすることになったので、どうやってみんなが楽しく取り組める授業形式のものにするかを心掛けた。上回生のスーパーバイズでは、どうやったらみんなが発表しやすいかの工夫を考えてもらえたので助けられた。

(当日のまち土の中で心掛けたこと。上回生のスーパーバイズの中で気づいたこと、助けられたこと)

当日のまち土では、子供が楽しく取り組めるように、班での活動で、なかなか気分がのっていない子供に役割を与えて、班での活動に積極的に入れるようにした。

(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、失敗したなと思うこと、よかったと思うこと、次はこうしたいと思うことなど)

時間が思った以上にかかってしまったりして、思ったようなペースで進められず、失敗してしまった。次からは、かかる時間をしっかり考えて準備をするとともに、本番で予想外のことになってもしっかり対応を考えていきたい。

表3-2　学生の感想(A：2回生：リーダー)

(当日までの準備のなかで心掛けたこと。上回生のスーパーバイズのなかで、気づいたこと、助けられたこと)

準備物や進行の仕方・話し方などで注意することや気をつけることのアドバイスが具体的でとても助かりました。

(当日のまち土の中で心掛けたこと。上回生のスーパーバイズの中で気づいたこと、助けられたこと)

動き回る子への対応がとても助かりました。

(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、失敗したなと思うこと、よかったと思うこと、次はこうしたいと思うことなど)

失敗したなと思うことは他の人が発表しているときに私語を続ける子がいて、静かに発表を聞けなかったのが残念でした。良かった点は班で役割を分担させることができたので、作業がスムーズに進めれたところです。次回は途中で集中力がとぎれないような展開にしたいです。

表3-3　学生の感想(E：3回生：スーパーバイザー)

(当日までの準備の中で心掛けたこと。リーダー(2回生)の反応から気づいたことなど)

当日に予想外のものがいることがないようにできるだけ準備物を完ぺきにするように心がけた。

(スーパーバイザーとして、当日のまち土の中で心掛けたこと。リーダー(2回生)の反応から気づいたことなど)

できるだけ自分の班だけでなく周りの子どもたちをみるように心がけた。

(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、リーダー(2回生)へのアドバイス)

ポスター作りが予想以上に時間がかかりだれてしまう子どもが出てしまった。全体の空気を閉めることが大切だと感じたのでは…？

表3-4　学生の感想(D：3回生：スーパーバイザー)

(当日までの準備の中で心掛けたこと。リーダー(2回生)の反応から気づいたことなど)

子どもたちが分かりやすいようにするためにはどのようにすればよいかについて心掛けました。今回ならプリンターを使ったりタブレットを使用したり、ポスターを作ると盛りだくさんの内容であったため、いかに分かりやすくするかに気をつけました。2回生中心で話題(やりたい内容)を話してほしかったのですが、どうしてもこれのほうが良いかな？と意見を言ってしまうことが多く、その辺も含めて3回目にはもっとみんなから意見が出るようにしていきたい。

(スーパーバイザーとして、当日のまち土の中で心掛けたこと。リーダー(2回生)の反応から気づいたことなど)

リーダーが抜けているところや、流れについてアドバイスをしました。人数が少なかったので、できるだけ多くの班を見ようとし、リーダーとサブリーダーが会を進行しやすいように努めました。

(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、リーダー(2回生)へのアドバイス)

お疲れさまでした。声の大きさが大変よかったので聞きとりやすかったです。でも、ただ声を出

して説明しているときもありましたので、間をおいて大丈夫？などと声をかけてもよかったと思います。また、ポスターの説明をホワイトボードに書いておくなり、説明を言うだけであったので子どもたちが？となっていたので、うまい説明より短く簡潔に説明することが大切であると感じましたし、改善していく必要があるのではないかと思います。初めてでしたが、本当にお疲れさまでした。

表3-5　学生の感想（G：3回生：当日補助）

全体としては、授業の流れについていけてる印象でした。しかし、自分の担当した班は、やる気のある子どもとない子どもの差が大きく、まとめることができませんでした。次は班をまとめる点に気をつけて取りくみたいと思います。

2．2．3．第3回(10/25)読書の秋_落ち葉を拾ってしおりを作ろう（参加児童数12名）

大学構内で落ち葉を拾い、その落ち葉を利用したしおり作りと、しおりの歴史について学んだ。今回は、前回の学習で全体での学びに入りにくかった児童がいたことをふまえ、グループ分けを学生の側から指示した。

学生の感想を表4-1～4-6に示す。

表4-1　学生の感想（B：2回生：リーダー）

（当日までの準備のなかで心掛けたこと。上回生のスーパーバイズのなかで、気づいたこと、助けられたこと）

しおり作成の際のあると良いもの、紙質の試作会のときの選び方、時間配分の仕方

（当日のまち土の中で心掛けたこと。上回生のスーパーバイズの中で気づいたこと、助けられたこと）

子どもたちの班分けのときの促し。秋を見つけに行ったときの子どもの誘導の仕方がすごく上手で、これから見習っていきたいなと思いました。時間の配分。

（当日の全体の流れや子どもの動きを通して、失敗したなと思うこと、よかったと思うこと、次はこうしたいと思うことなど）

最初班分けするとき、予想以上に嫌だ！という子がいて、どうしようかすごく不安だった。しおりづくりが意外と時間をとってくれてよかった。和大ということもあり、外に秋を見つけに行くことができて、どんぐりなどに触れることができて、すごく喜んでくれたところ。クイズの時間が短すぎた。

表4-2　学生の感想（C：2回生：リーダー）

（当日までの準備のなかで心掛けたこと。上回生のスーパーバイズのなかで、気づいたこと、助けられたこと）

時間配分がこの前のまち土で難しかったので、作る時間にどぐらいかかるのかを試作品を作るなどして考えた。

（当日のまち土の中で心掛けたこと。上回生のスーパーバイズの中で気づいたこと、助けられたこと）

班の分け方をランダムにしたため、少し楽しそうじゃない子どもや、作業が分からないで困っている子、話し聞けてない子に積極的にコミュニケーションを取るなどを心掛けた。

（当日の全体の流れや子どもの動きを通して、失敗したなと思うこと、よかったと思うこと、次はこうしたいと思うことなど）

最後にクイズを行ったが、なかなか話を聞いてくれていないことが多かったため、作業に入る前にクイズを行うもありかなと思った。少しドライヤーが必要だったかと思う。班を分けたことで女子の仲の良い子もバラバラになってしまったため、もう少し考えないといけないかなと思った。

表4-3　学生の感想（G：3回生：スーパーバイザー）

（当日までの準備の中で心掛けたこと。リーダー（2回生）の反応から気づいたことなど）

まち土2年目なので、時間配分や流れなどは分かるので、適切な時間配分を考えた。

（スーパーバイザーとして、当日のまち土の中で心掛けたこと。リーダー（2回生）の反応から気づいたことなど）

子どもが何をする時間か分かっていないときには指示を促したり、リーダーに確認して子どもに指示をした。

（当日の全体の流れや子どもの動きを通して、リーダー（2回生）へのアドバイス）

指示をもう少しはっきりと言うべきだったと思う。順調に進んでいたが、少し退屈そうな子どもがいたかも。

表4-4　学生の感想（F：3回生：スーパーバイザー）

（当日までの準備の中で心掛けたこと。リーダー（2回生）の反応から気づいたことなど）

子どもをよくほめれていて、とてもよかったと思います。10月後半ということで、季節を活かしたよい題材だったと思います。

（スーパーバイザーとして、当日のまち土の中で心掛けたこと。リーダー（2回生）の反応から気づいたことなど）

もう少し、子ども目線に立ってもいいのかなと

思いました。クイズの時の立ち位置などに気づくと思います！
(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、リーダー(２回生)へのアドバイス)
　はじめ方と終わり方はもう少し意識した方がいいと思いました。何となくはじまって何となく終わるのでは子どもからの印象もぼやけてしまいます。今日の状況ではなかなか難しかったと思いますが、もっと、クラスに聞く姿勢ができてから話すと、より効果的かと思います。

表4-5　学生の感想(Ｄ：３回生：当日補助)

　しおりづくりが楽しいと言っている子が多かったので、ずっとしおりづくりで良かったと思います。最後にクイズをやったことで、“あ、やっぱり勉強なんや”と子どもたちに思わせてしまったと感じました。また、クイズの内容も、「文化」や「日本国憲法」って何？と子どもたちが思っていたと感じたので改善が必要であると思います。子どものことでいえば、メンバーを誕生日で分けたことは良かったと思います。自分の班で言えば学年の違う女の子が会話をしたり、楽しく交われていたと思います。途中しおりづくりでこんなん作っているよと(学生が：筆者注)紹介するのは良かったと思いますが、最後に自分こんなん作ったよとみんなに紹介する時間があってもよかったと思います。ですが、子どもたちと自分自身が楽しく活動することができたのでそこが一番良かったです。お疲れさまでした。

表4-6　学生の感想(Ｅ：３回生：当日補助)

・しおりづくりで、あらかじめ落ち葉を用意するのではなく、班の子たちと拾いに出かけるというのがまち土のコンセプトでもある楽しく交わることにピッタリであったのでとても良かったです。班を好きな子同士でかためるのではなく、初めて話す子同士にするのもとても良い交流の機会になったように思えます。
・しおりを作るに当たり、はじめは何もなくスタンダードに、２作目からは色和紙やギザギザバサミや高級和紙を用意するなど、子どもたちの興味・関心を大変引きつけており良い工夫だと思いました。
・時間配分(落ち葉拾いは何分までか)などを知らせてくれると、より次の作業の開始がスムーズに行えたのかもしれないですね。
・袋を多く用意しておくことはとっても良かったです。

2．2．4．第４回(11/29)いもはんこを作り、みんなで手紙を書こう(参加児童数６名)
　サツマイモを用いていも版をつくり、それで年賀状作りを行った。また、クイズでサツマイモに関する知識を学んだ。
　学生の感想を表5-1～5-6に示す。

表5-1　学生の感想(Ａ：２回生：リーダー)

(当日までの準備のなかで心掛けたこと。上回生のスーパーバイズのなかで、気づいたこと、助けられたこと)
　準備物で足りないものかないかどうか気をつけた。
(当日のまち土の中で心掛けたこと。上回生のスーパーバイズの中で気づいたこと、助けられたこと)
　子どもたちへの声かけの仕方
(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、失敗したなと思うこと、よかったと思うこと、次はこうしたいと思うことなど)
　今日は人数が比較的少なく、１班に大人３人ついていただけたので、進行もスムーズにすることができてよかったです。
　クイズは簡単なものをつくったつもりでしたが意外と難しかったようだったので、楽しめていてよかったと思います。

表5-2　学生の感想(Ｂ：２回生：リーダー)

(当日までの準備のなかで心掛けたこと。上回生のスーパーバイズのなかで、気づいたこと、助けられたこと)
　足りないものの確認
(当日のまち土の中で心掛けたこと。上回生のスーパーバイズの中で気づいたこと、助けられたこと)
　てきぱき準備をしてくださって、すごく助かりました。こんなんどう？とか子どもたちに提案とかもしてくれていて、すごくよい時間になったと思います。
(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、失敗したなと思うこと、よかったと思うこと、次はこうしたいと思うことなど)
　今回は子どもが少なかったのと、やんちゃな男の子たちがいなかったので、スムーズにすることができた。この前はやんちゃな男の子に影響されてやんちゃな事していた子も非常におとなしかった。クイズの内容や時間配分もよかったと思う。今までのまち土でいちばんよかったように感じた。

表5-3　学生の感想(Ｆ：３回生：スーパーバイザー)

(当日までの準備の中で心掛けたこと。リーダー

(２回生)の反応から気づいたことなど)
２回生の主体性を重視し、なるべく意見は出さないようにした。４回目のまち土なので流石に慣れてきていて準備の効率もよかった。
(スーパーバイザーとして、当日のまち土の中で心掛けたこと。リーダー(２回生)の反応から気づいたことなど)
第三者の観点から全体を見るのではなく、子どもの視線で授業を見た。この作業のときに、もっと分かりやすい示し方があればいいのに、など、課題点が見えてきた。
(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、リーダー(２回生)へのアドバイス)
全体の流れを教師が説明するというのは、体験型学習において大切であると思います。作業をさせるために説明するのは一方的であってはいけません。子ども達はその段階でいろいろなことに気づき、先のことを考えたりします。作業がより良いものになるために、説明のとき、もっと交流を深めるといいと感じました。今回においては、時間埋め合わせのクイズではなく、ハンコ作り→手紙を書く→？など、もっと一貫性を持たせても良かったかなと思いました。

表5-4　学生の感想(Ｅ：３回生：スーパーバイザー)

(当日までの準備の中で心掛けたこと。リーダー(２回生)の反応から気づいたことなど)
時期に見合ったものや、はんこを作るだけで終了ではなく、はんこを使い、味のあるはがきを作る作業を入れるなど、子どもたちがあきないように授業を組み立てていてよかった。子どもたちに分かりやすくするように、見本を用意しているなどがよかった。
(スーパーバイザーとして、当日のまち土の中で心掛けたこと。リーダー(２回生)の反応から気づいたことなど)
時間などに気をつかい、子どもたちが困っているとすぐに補助に入っていることが大変よかった。子どもたちの様子をよく見れている。子ども達とたくさん話しながら授業を進めれていて、周りをみつつ自分の仕事にもしっかりと取り組めているのがよかった。
(当日の全体の流れや子どもの動きを通して、リーダー(２回生)へのアドバイス)
パワーポイントなどの字をよりやさしいものにすれば、よりよかったのかもしれないです。クイズなどは、グラフや絵などで親しみやすいものにできていて、子どもたちも飽きることなく取り組めていたように思います。人数が少なかったこともあり、子ども達全員にしっかりと目を通せていたのがとてもよかったです。お疲れさまでした。

表5-5　学生の感想(Ｄ：３回生：当日補助)

クイズの説明が、実際に地図を用いていて子どもたちに分かりやすかったと思いました。はんこ作りや手紙作りでは子どもたちとの会話もあり、楽しく作ることができました。作業は楽しくできました。が、和歌山に関することが少ししかなかったのが残念です。社会科のようなこともどのように取り入れていくかを考えていかなければならないなあと自分も反省して次につなげていきたい。

表5-6　学生の感想(Ｇ：３回生：当日補助)

人数が少ないこともあり、よい流れで進んでいったような気がします。パワポに難しい言葉が多かったのと、もう少し、子どもが興味をもつような工夫があってもよかったかと思いました。

３．分析の枠組

２．２．で紹介した学生の感想を、彼らの授業づくりに関する学びとして、どのように分析するか。授業づくりに関する教師の知に関しては膨大な研究の蓄積があり、それらを跡づけ、分析枠組として用いることは筆者の力量では不可能である。本研究では、学生の反省の視点を「授業者」、「子どもの動き」、「子どもの学び」をキーワードに分析を行う。
なお、分析の対象にはしていないが、学生たちは振り返りシートに書いた内容をもとに、反省会を開き、互いの感想を交流している。

４．分析結果

学生の振り返りの内容を、分析の視点にしたがってまとめたものを、次ページ表6-1(２回生)、次々ページ表6-2(３回生)に示す。なお、表にするにあたっては、学生の振り返りの内容を意味を変えない範囲で要約して示した。また、例えば「子どもへの声かけ」が全体に対してか個別にかなど、分類の判断に迷う場合には、反省会での学生の発言内容をもとに分類した。判断のつきにくいものは、表には記していない。

４．１．２回生の学び

４回のまち土を通して一貫して言及されているのが準備(物)、１～３回で言及されているのが時間配分である。１回目、２回目では、進行の仕方、全体への声かけなど、全体に対しての立ち振る舞いについて多く述べられているが、３回目・４回目では、それが少なくなっている。また、子どもへの個別対応に関しては、１回目が「先輩から教えてもらったこと」として言及されているのに対し、２回目・３回目では「自分がしたこと」として述べられている。
子どもの動きについては、１～３回目で作業の進行

のようすが述べられている。また、２回目・３回目で私語が問題視されている。

子どもの学びについては、４回目にクイズに対する子どもの反応として述べられているが、全体として言及は少ない。

４．２．３回生の学び

２回生と同じく、準備(物)は一貫して４回のまち土の振り返りのなかで言及されている。また、時間配分についても、第２回の反省を除き言及されている。２回生と大きく異なるのは、全体に対する立ち振る舞いに関する反省の量・内容である。

子どもの動きについては、事前の予想との異なり、作業の進行、私語・逸脱行動についての言及がほとんどないのに対し、子どもの自主的・主体的な動きについての言及は多い。

子どもの学びについては、「勉強」が否定的なものとしてとらえられ(第３回、D)、子どもの学びがどのような場面で生じるものかという視点から述べられている(第４回、F)のが特徴的である。

５．考察

２回生と３回生の振り返りではその内容に大きな違いがあるが、それが端的に表れているのが子どもの私語についてのとらえである。子どもの私語という状況に対し、２回生は子どもの問題、３回生は授業者の問題、特に全体に対しての立ち振る舞いに課題があるととらえている。具体的には、２回生は２回目～４回目で私語に言及しているのに対し、３回生は私語そのものには触れず、けじめや一方的でない説明など、授業者の態度や振る舞いに関しての反省・感想を述べている。このことは、２回生が作業の進行や私語という子どもの行動に着目しているのに対し、３回生は授業者の立ち振る舞いに着目しているということができるかもしれない。しかし、後述する「子どもの学び」についての２回生・３回生の認識の差を鑑みたときに、私語が「問題」なのかについての認識の差が、上記の課題のとらえ方の差を生んでいるように思われる。

つまり、３回生にとっては、子どもたちが率先して行動したり(第１回、E)、交流したり(第３回、D、E)することが、まち土の成果・よかったこととしてとらえられている。表6-2に示した３回生の振り返りの「子どもの自主的・主体的な動き」の行からは、全員が楽しく工夫しながら活動に参加し、その過程で、また、成果物を交流することに積極的な意味が与えられ、重視されていることが読み取れる。その背景には、(はっきり表明されていないが)授業者が子どもの成果物を紹介したり、ましてクイズをさせるのではなく、子ども同士の交流を、というD(第３回)に端的に見られる子ども同士の交流に対する積極的な意味づけと、「作業をさせるために説明する段階で、子どもたちはいろい

表6-1　学生の振り返り(２回生)

		第１回	第２回	第３回	第４回
授業者について	事前の準備	△時間配分(A、B) △準備物(A)	・時間配分(C) △準備(A、C)	△時間配分(B、C) △準備物(B、C)	・準備物(A、B)
	授業展開		△途中で(子どもの)集中がとぎれない展開(A)	△作業とクイズのどちらを先にするか(展開)(C)	
	全体に対しての立ち振る舞い	・進行の仕方(A、B) ・全体への声かけ(A) ・大きな声(A、B)	・進行の仕方(A) ・話し方(A)		
	子どもへの個別対応	・子どもたちの中でも、スムーズに作業できる子と、そうでない子の間で生まれる時間差をなくすようにする手段。(A)	・班で役割を与えて(A、C)	・楽しそうじゃない子、困っている子、話を聞けていない子とコミュニケーションをとる(C)	
子どもの動きについて	事前の予想との異なり	・子どもたちの動きが読めなかった(B)		・班分けするとき、予想以上に嫌だ！という子がいて(B)	
	作業の進行	△班によってはすごい差があった(A)	○作業がスムーズに進められた(A)	△しおりづくりが意外と時間をとって(B)	
	子どもの自主的・主体的な動き			○どんぐりなどに触れることができて、すごく喜んで(B)	
	私語・逸脱行動について		△他の人が発表しているときに私語(A)	△なかなか話を聞いていないことが多い(C)	・この前はやんちゃな男の子に影響されてやんちゃなことをしていた子もおとなしかった(B)
子どもの学びについて					○クイズの内容も良かった(B) △クイズは意外と難しそうだった(A)
先輩を見て		○さわぐ子への対応(A) ○子どもたちに慕われていてすごい(B)	○動き回る子への対応(A)	○班分けのときの促し(B) ○子どもの誘導の仕方がすごく上手(B)	○こんなんどう？とか、子どもたちに提案(B)

(　)内は学生。　・中立的な内容、○良かったこと、△課題・次回への反省点

表6-2　学生の振り返り（3回生）

		第1回	第2回	第3回	第4回
授業者について	事前の準備	○時間配分(F) ・準備物(D)	・準備(E)	・時間配分(G) ・準備物(E)	・時間配分(E) ○準備(E、F)
	授業展開			○1作目と2作目で使ってよい道具、材料を変える(E) △クイズ(授業者が用意するもの)より、むしろ子ども同士の交流を(D)	○子どもが飽きない作業の組み立て(E) △もっと一貫性を持たせてもよかった(F)
	全体に対しての立ち振る舞い	△声の大きさ、強弱(D、F)	○声の大きさ △全体の空気を締める(E) △ただ、声に出して説明(F)	○途中、しおりづくりでこんなん作っていると紹介する(D) △指示をもう少しはっきり言うべき(F) △はじめ方と終わり方をもう少し意識(F) △クイズの時の立ち位置(F) △クラスに聞く姿勢ができてから話す(F)	△説明のとき、もっと交流を深めると良い(F) ○子ども達とたくさん話しながら授業を進められていて(E)
	子どもへの個別対応			○子どもをよくほめれていて(F)	○子どもをよく見ていて、困っているとすぐに補助に入っている(E)
子どもの動きについて	事前の予想との異なり				
	作業の進行		△予想以上に時間がかかり(E)		
	子どもの自主的・主体的な動き	○班の子ども達全員で取り組めていた(E) ○周りの先生たちの分も子どもたちが率先して用意(E)		○しおりづくりが楽しいと言っている子が多かった(D) ○初めて話す子ども同士の交流(D、E) △少し退屈そうな子どもがいた(G)	
	私語・逸脱行動について	△集中できない子が多い(F)			
子どもの学びについて				△「勉強なんや」と子どもに思わせた(D) △クイズの内容がわかりづらい(D)	・作業をさせるために説明する段階で、子どもたちはいろいろなことに気づき、先のことを考えたりする(F)

(　)内は学生。　・中立的な内容、○良かったこと、△課題・次回への反省点

ろなことに気づき、先のことを考えたりする」というF(第4回)に表出されている子どもの学びについての気づきがあろう。

概して言えば、3回生では「子どもの学び」についての学生の学びの深まりがあり、それが、子どもたちにけじめをつけさせ、子どもたちとのやり取りのなかで指示を徹底させることができていないという、授業者の立ち振る舞いに対しての厳しい評価につながっていると考えられる。

学生のまち土を通しての学びについてここまで考察してきたように、3回生が、いわば「子どもから」学んでいるのだとすれば、2回生はどこから学んでいるのか。それは端的に表現するならば、「3回生から」であり、その内容は、事前準備の段階での準備(物)と時間配分、当日の子どもに対する個別対応であることが表6-1から読み取れる。

6．成果と今後の課題

本研究では、学生が中心となって運営する授業の場面において、2回生と3回生という異学年間の交流を意図的に組み込むことによる学生の学びについて考察した。明らかになったことは、特にまち土当日において、2回生は3回生から子どもに対する個別対応を、3回生は子どものようすから授業者の全体に対する立ち振る舞いのありようについて学んでいる、ということであろう。

授業者の立ち振る舞いや学習者への個別対応など、実践知の重要性については、筆者も否定するものではない。しかし社会科教育学の立場から言えば、「実践を円滑に進める」必要があるのは「社会認識を通して市民的資質を育成する」という社会科の目標に到達するためであり、授業を円滑に進めることが目的化してしまうようでは、本末転倒と言わざるを得ない。学生がまち土を通して学んでいる実践知を、子どもの社会認識の内容とその発達・獲得の理論、そして市民的資質の内容と発達・獲得の理論という社会科教育学の知見とどのように理論的・実践的に結びつけていくのか。今後の課題は大きい。

注

1）豊田充崇、後藤千晴「まちかど土曜楽交の成果と課題」和歌山大学地域連携・生涯学習センター『和歌山大学地域連携・生涯学習センター紀要・年報』12、2013、pp.91-95

2）豊田、後藤前掲、p.91